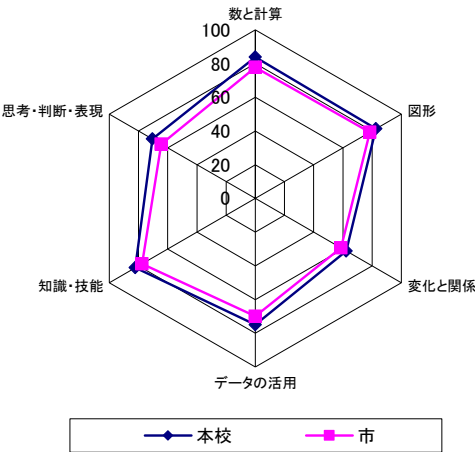


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.8	77.7	78.6
	図形	82.6	78.4	74.4
	変化と関係	62.3	58.7	53.0
	データの活用	74.9	69.9	57.2
観点別	知識・技能	82.2	77.5	74.0
	思考・判断・表現	70.5	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○ほとんどの設問の正答率は、市の平均より上回っている。特に、分数の計算において、文章から、基準量が分数の場合における分数倍の比較量を求めるという設問の正答率は75.3%で、市の正答率より13.8ポイント高く良好だった。 ●小数の計算(小数第一位×小数第一位)の正答率は79.2%で、市の平均よりやや下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、基準量が分数や小数の場合の比較量を求める計算など、文章から立式するだけでなく、自分の考えを図に表して考えていくことができるようにしていく。 ・小数や分数の計算など、基本となる計算練習をAドリルを活用するなどして、繰り返し復習し、定着を図っていく。 ・授業場面で正答の確認に終始せず、誤答を基に学び合える授業展開を推進することで、思考力・表現力の向上を目指していく。
図形	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○多角形の角の大きさの和の求め方を説明するという設問では、正答率が53.2ポイントと市の平均正答率を15.4ポイント上回った。自分の考えを伝え合う活動を多く取り入れた成果だと考えられる。 ●対称な図形の紙を折った状態で切ることができる模様についての設問では、正答率が84.4ポイントと市の平均を5.9ポイント下回った。普段から体験的な活動を通してイメージする力を付けることが必要だと考えられる。	・自分の考えを友達に説明したり、グループで共有したりする時間を多くとれるようにする。 ・できる形を想像しながら紙を切る活動や、パソコンを用いて視覚的に理解を図る活動などを、積極的に取り入れる。 ・図形の合同条件への理解を深めると共に、辺の長さや角の大きさなど様々な要素を用いて作図する経験を積ませることで、正確に作図できる技能の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○割合と割合のグラフの内容で、百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶこと、単位量あたりの大きさ・速さに関する内容で、速さの単位の関係を理解し、分速や秒速や時速に直すことについての設問の正答率は市の正答率より高い。 ●単位量あたりの大きさ・速さで、表から面積と人数の割合を求め、どのボールが最も混んでいるかを考察するという設問の正答率は48.1%で、市の正答率より6.8ポイント低い。	・今後も、単位量あたりの大きさ・速さ、割合や割合のグラフに関する内容の問題について復習する時間を設け、学習内容の更なる定着を図っていく。 ・数量の変化と関係においては、日常の様々な場面を例に、面積に対する人数などの混み具合や、定価と割引、時間と速さの関係など、実生活に関連付けた事象を取扱うことで興味関心をもって学習ができるように工夫する。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○円のグラフから割合を読み取る設問の正答率は92.2%で、市の平均を2.1ポイント上回った。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する設問は、市の平均より9.9ポイント高かったが、正答率は54.5%で、他の設問に比べて低い。解答は合っているが、理由を書いていない、理由を間違えている児童が3割程度いた。	・今後も、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもって、統計的な問題解決の方法を考察できるよう指導していく。 ・目的に合わせたデータの収集や分類整理、表やグラフ、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決の方法を理解することができるよう指導していく。